

人文会 ニュース

業務用

人文書を柱に20年

名古屋 ちくさ正文館書店 坂口利春

新しい『知』のもとめに

仙台 八重洲書房 谷口和雄

特約店の選定を終えて

調査・企画委員長 萬洲隆男

東販・日販 ブックフェア報告

弘報委員会

〈店頭レポート〉

旧定価本・在庫僅少本セール

信山社 後藤 裕

人文会山陽道みてある記

弘報委員会 菊池明郎

〈人文書講座2〉

「総合の学」としての神秘学

平河出版社 舟岡郁子

人文会各社売行良好ベスト5(9月～11月)

'83. 2

37

有斐閣選書

一人ひとりを活かす教育相談

東京学芸大学教育相談研究会 一七〇〇円

担当の先生と父母のために「登校拒否や自閉的傾向が先生や父母を悩ましています」といふれば適切な指導ができる方を説いた

生涯学習の時代

市川昭午・天野郁夫編 一六〇〇円

「激動の現代を生き抜くために」本書は、これからの日本型学習社会のあり方を模索し、生涯学習の理念の実現の具体策を提言

有斐閣 東京都千代田区神田神保町2

シラードの証言

核開発の回想と資料 空言「証言」原爆製造から使用反対にいたる核問題に常に指導的な役割を演じた天才の未公開の回想と資料。伏見康治・論訳 三〇〇円

開かれた研究所と指導者たち

朝永振一郎著作集6 (第7回配本) 生涯の各時期に関与した選研はか諸研究所の歴史と指導者の個性を回顧した講演・座談を収める。玉木英彦解説 三〇〇円

日記・書簡集

神谷美恵子著作集10 (第10回配本・完結) 著者二五歳の時から最後の年まで四〇年間にわたる自己の内面の記録と、親しい人びとに綴られた美しい書簡抄。一五〇円

アラン、ヘッセ、トルストイ

ロマン・罗兰全集39 (第34回配本) 世紀末、恐慌、独裁者台頭、世界大戦を共にしたアラン、ヘッセ、トルストイとの珠玉の仕舞書簡集。山崎他訳 三〇〇円

東京文京本郷3丁目17-15

みすず書房

埴谷雄高対話集

微塵と出現

単獨と永劫

●B6判函入・各価一八〇〇円

戦後文学を総括し、その未来性を予見する核心的対話8篇を収めた『微塵と出現』と、すでに逝った武田泰淳、竹内好等との思い出を通して文学・思想上の交流を語る『単獨と永劫』

◀既刊20冊▶

車樂繪機遊塙鷹秤府窟星輪潮汐着現端極
風獨影拍彈蚌坩と天冥瑩と遊年嘯汐密現端極
渠と銘と鉛ととと撒動とと海潮のなかの政治ととと
濠と銘と鉛ととと撒動とと海潮のなかの政治ととと
鞭墓畏垂甕振彌渦兜橄鐘石蓮天頂幻視のなかの政治ととと
凝視空示黙天啓

東京・文京 小石川3-7 未来社 電話・代表 (814) 5521

国史大辞典

国史大辞典編集委員会編

全15巻(内索引1冊)

第3巻(か)

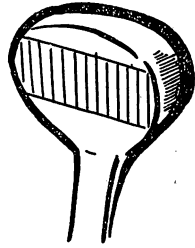
興倍判・二一八〇頁 定価二二、〇〇〇円

日本史学の水準を示す空前の歴史大辞典。学界のベストメンバー二千数百人が執筆参加。総項目四万二千、日本歴史の全領域を網羅。更に周辺諸学にわたり必須項目を悉く収めた画期的大編集。明細「内容見本」送呈

◀既刊▶第1巻(あーい)／第2巻(うーお) 各二二、〇〇〇円

吉川弘文館

113・東京都文京区本郷7-2-8 / 電話03-813-9151



人文書を柱に20年

名古屋 ちくさ正文館書店 坂口利春

専門書販売は書店の展開でどのように位置づけられるか。書店の姿勢、立地、スペース、回転等々、とりまく要因は数多くある。利潤追求のみに立つならば切り捨ては簡単だ。

志しと努力と工夫で頑張っている全国の書店に出会う時に本当に発奮させられる。

今回は幾多の中から二店にその考えを聞かせていただいた。まさに専門書販売奮戦記だ、ガンバレ全国の専門書販売書店ノ

弘報委員会

「思えば、創業二十年ということになりましたが、永かったとも短かったとも感慨にふけていられないのは、これから先の緊張感の故かも知れません。あの頃は人文文学書売場は、四〇坪そこそこのスペースでしたから、何をどこに入れるのか、自分なりの分類と必備の書物を一冊ずつ吟味したものです。

現代思潮社のコーナーを片隅に少し作ったり、尋ねられた本がなかったりすると、その本はいつもここにを入れてあるのだが、今は補充中だと必死に弁明をしたのを憶えています。

す。自分の好みで棚構成をしたのですから、かなり個性的であったとは思っています。売行とか回転率を度外視して自分なりにいい本かどうかを選定の基準にしていたのですから、幸せな時代だったといえましょう。

現在では売場スペースも四倍ほどになり、各ジャンルも拡大したのですが、売上げでは四苦八苦しています。これは、なまじ中途半端に店舗を拡張したことによるのか、棚構成の内容が読者に迎えられないものなのか、あるいは、人文・歴史・社会科学の書物が今置

かれている苦しい手さぐりの状況の中に私どもも共にいるのだとも思っています。超大型店と生協、両者は資金的に、店舗環境で、あるいは取引条件等を考えてみれば、今後とも人文書を充分に扱っていけると思います。問題は私どものような大型店とも中型店ともつかぬ書店、あるいは人文社会科学系の専門書店が、情熱や志を失うことなく、これらの書物を永続的に取扱ってゆくかどうかだと思っています。そこで私どもは次のようなことを考えています。

苦しいけれども人文・歴史・文学の三つの柱を内容的に更に絞り込む、そのために、

1 社会科学周辺の移ろいやすいもの、軽いものは思い切ってカットし、歴史、民俗学、宗教のジャンルを充実、総花的構成を改める。

2 たえず、大小を問わずユニークな企画をたて、外商活動とのタイアップにより、PRと販売促進を図る。

3 残念ながら、各支店は売れるものをほとんど売ることによって経営上の収支をトータルでとらえる。経営上から言えば売れるものを売るのはごく当り前のことにすぎませんが、二〇年間、私を支えてきた書店人としての喜びと誇りは何であったのか、ここは頑張らなければならぬ正念場だと思っています。

しかし私にとって最も幸せなことは、永い間、小店を可愛がってくださった多くのお客様と、二〇年間いつも私や社員を励まし、力になって下さった版元の皆様のお蔭だと思っています。そしてこれからは一人でも多くの気持ちを理解し、協力してくれる若い書店人を育ててゆきたい、それが私の最後の御奉公だと思っています。」

以上、長くなりましたが、谷口社長の現在の心境です。私達後に続く者としても率直な感想を申し上げたいと思います。

創業以来十六年たつて二二〇坪の売場に拡張することになり、この時もジャンルの拡大は計らずに人文書の充実を第一に考えた。所詮二二〇坪で医学書・農学書など陳列しても各ジャンルを一つ一つチェックすれば中途半端な商品構成になり、いわゆる基本図書の展示のみに終ると考え、特色ある店作りを目指した訳である。すなわち、人文書を当店の柱とすることとさらに棚を『より鮮明により深く』と志向したのである。この時に充実を計った分野に文学・芸術がある。これは歴史・哲学との関連であり当店の大きな柱でもある。また、五四年一月には千種駅前ミニナルビルが建ち当方も出店を余儀なくされ一四〇坪の売場面積を持つことになった。しかし、あまりにも地理的に近く、ターミナル店は学参を中心に雑誌・文庫・一般書で商品構成を計り、ちくさ本店はさらに前述のごとく専門化することで客層の二分化を計った訳である。このような経過で二〇年人文書の中

心に携ってきたが、専門書の販売・仕入れ、管理がいかに忍耐、努力そして販売までの時間の掛るものかを感じざるを得ない。しかし年月の蓄積とはうらはらに未だ専門書の販売についての結論めいたものも無く、模索の状態をつづけている。まさに人に例えれば成人式を終えやっと社会的に責任を持つ立場に立ったという時期にも似ており、むしろこれらが大変である。ただ二〇年の蓄積を無駄にせず、まだまだ続く読者志向の変化、人文書の不振にどう対応していくかであろう。

目的意識をもった仕入れ

物を販売する者にとって仕入れた物をいか

に販売するかは絶えず念頭にある訳である。しかし、われわれの業界においては毎日一〇〇点前後の新作・重版が取次よりパターン配本によって送品され、膨大な商品在庫を抱えている。こうした状況の中で自店に見合った新刊を、毎日抽出するとなるとほんの僅かな量でしかない。自店の特色作り、客層を考えれば考えるほど抽出度合が少なくなる。特に私どものように人文書を店の柱としている書店にとっては、パターン配本での依存仕入れでは内容の充実と管理は不可能であり、自

ら版元の人達とのコミュニケーション、そして新聞書評などの資料や媒体によるものが多くなる。また、委託配本だからと言って安易に仕入れた商品は確固たる目的意識がないので、当然、商品展示も販売努力も怠る結果になる。したがってこのような新刊は店頭に残る期間も短かく、すべてのムダを含んでいる。たしかに毎日膨大な点数の新刊を吟味する事はむづかしいことであるが、この受入れを明確にすることが店の個性化・活性化に直結する。私共は『目的意識の無い商品を仕入れるな』を合言葉に、無責任な商品が店の片隅に残らぬようチェックを心掛けねばならない。

専門書は手間、暇をおしんではならないベストセラーになるような本の展示・販売努力については店頭であれば、どの場所に平積にしても売れ、どの場所に置いても衝動買いされる商品である。ただ商品が充分に調達されれば良い訳であり、展示・販売についての苦勞も比較的少ない。しかし専門書の場合、ベストセラー商品とは逆に商品の調達は注文さえ怠らなければスムーズに行くが、展示・販売等についての努力が大変である。専

門書のような目的買い商品にわれわれは毎日どのように努めているのか。

いくら目的意識をもって仕入れた新刊でも漠然と棚に陳列しても売れる訳もなく、生きた商品とは言えない。例えば、哲学・思想関係で言えば、入門書から高度な内容の本まで細分化した分類や、思想史の流れが把握しやすいように分類しそれらの指定席に見合った本が管理されてこそ生きた商品になってくるのである。このための商品知識・棚構成・演出は一般書に比べより緻密で時には高度な知識が要求される。また、最近の新刊書には既成の分類に収まらない内容の本が多く、書名から判断すると内容も多岐にわたり、分散するとかえって探しにくく売り損じという現象もあるので、新刊が出ると既刊書もまとめて展示したり、コーナー作りも工夫する。そして読者に対しては新刊案内書などのサービスによる情報提供は当然に行なわれる。外商に至っては定価に関係なく新刊を見計いと称して大学の図書館・研究室への確に持参しなければ売れないという現状であり、まさに行商である。たしかに売れた時代は今や語り草となり売る時代ではあるが、特に専門書の場合

は一冊一冊の販売に時間と労力が不可決の条件となる。それでも返品もあり商品を在庫として抱え込む事も多い。

人文書の現状と今後の展望

本は文化性、商品性の両義性を持つと言われている。とりわけ現状は商品性に重きを置いた本が多く出回っている事は周知のとおりである。また、これらは定価・装幀・客層など文化性の高い人文書のような商品とはおのずと異なる。若者の活字離れが云々されて久しいが活字が若者に見離された訳ではない。現実に私どものターミナル店のように客層として若者が多く、しかもほとんど一般書・雑誌の売場においては僅かながら売上げは伸びている。これらの本を考えると一過性のものが多く、手軽に読めるものばかりである。これはニューメディアの研究、開発や若者の生活の多様化により読書力の低下、読書時間の内容に関連している現象ではないだろうか。最近では人文書の分野にもこの類いのものが出版され、中には良く売れるものもある。例えば思想をマンガで表現した本や小学館から刊行された『日本国憲法』のようにベストセラーになると類似の装幀を施した類似の内容

の出版物が競って出版されるのも関連ある現象だろう。

このように人文書の分野にも最近では視覚に訴えるものや手軽に読める本が増えつつあるが、これは人文書の裾野が拡大されたと解釈できるのだろうか。そしてこれらが若者の読者ニーズになった商品であり啓蒙書としての役割りを果たしているとしても、これらまで本質的な人文書として受けとめることができるのか釈然としない。また、これら入門、啓蒙書として考えるなら、次に一步でも學術書に踏み込んだような本が売れても良いはずだが、店頭で見ると限りの兆候もなく将来に不安を感じざるを得ない。

一方、最近では大学生協の書籍売場が拡大されているが、そのなかで充実する分野に必ず人文、社会科学書が含まれていると聞く。

しかし私も書店の人文書売場の客層でいえば人文書を求める学生は逆に減少気味で大半が教員、社会人の方々である。

これは私どもの情報不足によるニーズに合った商品構成がなされていないのか、立地条件の問題なのか、または生協の定価の値引きによるものかわからない。確かなことは学生

の専門書離れが云々されている中で専門書を買求める学生にとって、身近な構内という立地にあり、しかも比較的定価の高い専門書が安く入手できることは魅力である。

おまけに商品の充実となればなおさらのことであろう。とうぜん、交通費を払って書店まで足を運ぶことは少なくなり、これらも店頭で学生の姿を見かけない要因かもしれない。しかし同じ専門書が生協ではいかに合法的とはいえ一〇〜二〇%も安く売られているのを見ると、一体、本の定価設定はどうなっているのか疑問を感じる。

企画の厳選と出版業

最近の個人消費支出の低下は読者の厳選購入へつながり、多種多様化している読者のニーズに 대응べく、各出版社も多品種少量生産を余儀なくされ、その結果が高定価・過剰生産（類似企画生産）、過剰返品、過剰返品として現われ何時までも根が断たれない問題である。出版業界において「柳の下のだじウ」は二匹か三匹はねらえるとはよく聞くが、現状は五匹か六匹ぐらゐに考えられる。

一つの企画が成功すれば次から次へと類似した便乗企画が出版され、これでは読者も消

化不良の状態に陥り、出版界に対する不信感まで引き起す要因にもなりかねない。読者が商品選択に厳しい目を向けている時に、出版社も読者以上に厳選された魅力ある企画が必要と思う。四八年のオイル・ショック当時を思い浮かべてはいかがだろうか。

また、かつて出版業といわれていたものが今や出版産業といわれている。これは本を文化性に重点を置いて質的販売を目指すという時代から商品性をとらえ量的販売を目的とする出版界の変貌を意味していることと思う。

いづれにせよ現況では売上げの数字だけが問題となるが今こそ『本とは何か』『出版とは何か』『書店は何を売するのか』を良くみきわめ真剣に考える時ではなからうか。ただ単に読者のニーズに見合った商品を追求し売れば良いという事で満足する事なく本の持つ「使命」を再認識する必要がある。特に人文書には本来、読者を啓蒙し、文化を支える使命が強く含まれる。

現状錯誤も甚だしいと思われるかも知れないが、専門書を扱う者にとってそれは忘れてはならないことであり、出版社・取次・書店の責務とも思う。

新しい『知』のもとめに

仙台 八重洲書房 谷 口 和 雄



出版不況、人文書の売れ行き不振が言われるようになって数年たつ。私の店が三坪の店でオープンしたのが一三年前、当初から人文書を中心とした品揃えでやってきた。その立場から人文書の売行き不振ということを考える時、状況の一般論に問題を解消してもしょうがないな、といつも思ってきた。むしろそれは、読者像の社会的変化を書店側が把握できず、対応力を失なった棚づくりをしていることへの読者の解答であり、主体の側の問題であるという感じがする。

読者像の変化について

私が学生だった頃、例えば、マルクスの『経哲草稿』、吉本隆明の『共同幻想論』を読んでいるということが学生同志のコミュニケーションの前提となるという状況があった。このコミュニケーションの前提としての読書は若者の大きな読書空間を形造っている。このコミュニケーションのあり方、読書空間が、現在大きく変貌してきているのではないか。

まず今の若者は、さまざまなメディアからの情報に、大きな価値を置いている。本だけに雑誌を買う。私の店でも、東京の情報誌

でしかない『ぴあ』が二〇〜三〇部売れる。私の学生時代には想像できなかったことだ。

その情報が、ファッション、映画、音楽、生活、書籍その他と多様化しつつ、若者同志のコミュニケーションの前提になっているのではないか。話は横道にそれるが、最近、『ブレイボーイ』でみた書名がわけのわからない本」とか『クロワッサン』でみたものぐさの本」という聞かれかたが多くなったような気がする。それぞれ『ペペラギ』と『ものぐさ精神分析』のことだったが。こういった読者の特徴は、書名、出版社名の記憶は不鮮明でも、その情報を与えてくれた雑誌の記憶は鮮

明であることだ。かなりの度合で自分が読む情報媒体を読者は固定させているのではない。メディアについてさらに言えば、テレビ

の影響力は確かに強い。月曜になると細川隆元推薦の本が必ず置かれるのもそのいい例だ。だが、今の若者は、自分の波長に合った情報媒体を、マスメディア、ミニメディアを問わず、自分で選びだし、テレビ以上に価値評価するケースも多いようだ。このような、情報化社会、大衆社会状況がもたらした読書空間の変化は、書籍の分野においても、かつての青年の読書と、大人の生活者としての読書という区別を失わせ、一様に、実用性を中心とした生活者としての読書への変化として、現われている。これは、かつては、さまざまなレベルの人間関係の中から体得してきた生活者としての知恵から、今の若者が大衆社会状況の中で疎外された結果であり、メディア情報に対する受動的な対応の一つの現われであると思う。さらに、情報の多様化と呼応して、書籍の選択の多様化として現われている。こうした書籍の選択の実用性への傾斜と多様化に本屋はどう対応すべきなのか。一つの方向として、広大なスペースの多様化に

応えるべくさまざまな本を置き、本も実用性の高い本の比率を多くする、という方法が考えられる。

しかしそれは、私の店のような地方の小書店には不可能なことである。一つの実験として、総合大書店のとる道と全く逆の道、非実用の「知」を徹底して集めた専門性の強い書店を選択してみたい。この選択は、非実用の「知」の集積として書店自体が一つの情報となり、非実用の「知」を求める読者の実用性に書店自体が応える道である。つまり、「あそこの本屋に行けば、他店にない何々が必ずある。」という情報になり、すぐもとめられる実用性に比べられる本屋になることである。実用書を必ずしも置く必要はない。読者像の変化をさぐるアンテナとして、裾野は常に広げつつも、より専門性の高い本屋をつくることだ。それが平板な総合性よりは、多様化した本の選択の一定の領域により的確に対応できる道である。何にでも応えることは超大型の総合書店でさえ不可能である。何でも置いているように見えるデパートでさえそれなりの客層のしぼり込みをやっているのだから。

今まで見てきたように、情報化社会、大衆社会状況は、読書空間の変化に大きな影響をおよぼしてきた。だがそれが読書空間の変化の本質であるとは言えない。逆説的に聞こえるかも知れないが人文書を読む若者は昔と比べて決して減ってはいない。「知」を求めるということは若者の本性である。今の状況の中で相対的に減少して見えるだけだ。むしろ読書空間の変化によってより本質的なことは、かつて影響力を持っていた「知」が、何か新しい「知」にとって変わっていくのではないか、ということだ。しかしそういう予感はある。でも今までの人文という枠では新しい「知」は見えにくい、ということが本屋の対応を難しくしている。一例をあげれば、かつてかなりの影響力を持っていたマルクス主義的な歴史観、社会観が今の状況への対応力(迎合ではない)を幾分失ないつつある。しかしそれにとっても芽がなかなかかきつけられなかった形では、見えてこない。そして、記号学、精神分析学、人類学など、現在活性化している分野においてそれを棚で表現しようとする、人文の枠や小分類の枠を越えてしまう。しかもそれは、本屋に新しい棚の組み

かえを強いているような気がする。例えば、栗本慎一郎の『パンツをはいたサル』は、カッパのコーナーに入れたら人文書の棚からはずされてしまう、という問題だけにとどまらない。書名文体から判断すれば、面白エッセイに入れたら良いのか、著者の肩書から経済学のコーナーに入れるか、それとも内容からして哲学思想に入れるのか迷ってしまう。

『パンツをはいたサル』を読む読者の価値観を本屋の側が直観的に読みきれないのだ。こうした例はいくつでもある。こうした迷いを抱えながら、読者とともに新しい「知」の芽を探っていくしかない。本屋が直観的に「その本」を「あるべき棚」に収めることができるようになるまで。

人文書について

人文書は普通、心理、哲学、宗教、といった分類に属する本の総体を示すようだ。もともと人文書という言葉は、出版業界用の分類用語ではない。だから、例えばある読者が、書店の心理、哲学、宗教の棚をみて、「情況への対応力」(迎合ではない)をもった「知の総体」というイメージを持てば、それ

が人文書概念の指し示すことになる。そして書店は、読者の求めるイメージにそって人文書を再編成して行けばいい。普通に考えられている人文書に隣接する自然科学の一部、美術、文学、批評、演劇なども含めた意味で人文書という言葉を使いたい。

私の店の二階の棚がそうなっているからでもあるが、それ以上に、例えば、詩人であり思想家である吉本隆明の仕事、さらに、科学史家の村上陽一郎、経済学者の栗本慎一郎等の仕事を見てみると、隣接している諸領域の中に、人文書の危機を救う何かがあるような予感があるからだ。次に、読者のイメージにそって人文書を再編成するということは、本屋が従来の人文哲学といった言葉の呪縛の虜になって、本を狭い分類の枠に閉じ込めてしまうことへの自戒でもある。本屋は、棚に本を差し込むことはできても、棚は本質的に読者がつくっていくものである、ということを常に頭に入れて置かねばならない。

次にもっと細かく、人文書の棚をみてみる。一例として、心理学の棚を例にあげる。この棚の中で、ユング・フロイトを中心とした精神分析学、岸田秀等の社会心理学という

分野のウェイトが高くなっている。しかしこれらの本は、実験心理が主流である仙台の心理学の先生には、見向きもされない。むしろ社会学、宗教学の先生によく買っていた。とすれば、精神分析学、社会心理学の棚は読者のイメージを優先させるとすれば、社会学、人類学と隣接する位置にもってきて、実験心理学の本は自然科学のところに持っていくべきであろう。このように、記号学、文化人類学、精神分析学といった新しいテーマの本は、従来の哲学、心理、宗教という分類の枠を越えた所で棚がつくられる。新しいテーマにそって人文書を組み換え、常時、棚のミニコーナーとして定着させていくことが、書店にとっての大きな課題である。

さて、大型店を中心に、人文書の新しい形のブックフェアが盛んである。ざっと見ただけでも「ジュレアリズム」「記号論」「一九二〇年代論」「精神世界」「アナール学派」と、私の店でも、是非やってみたいテーマである。このブックフェアは、新しいテーマ、新しい「知」の芽が、今までの人文書の棚の組み換えを強いていることへの書店の対応の一つの現われである。今のところ、これ

は情報収集能力、集本力から大都市の大型書店の先駆的な取り組みによってためられている。しかし、地方の小書店としても、店のアビルとか、一時的な売上増とか、といった問題とは別に、取り組んでいかなければならない課題である。

人文会さんから与えられたテーマ、「専門書を地方の書店がいかに売っていくか」というテーマとかけ離れた文章になってしまったが、確かに地方の書店が専門書売っていくことの困難さは数えていっただけが足りない。例えば、私の店では、店売を支えるために、大学を主力とした外売をやっている。人文書の棚について書いている私自身、日中は、ほとんど大学の先生のところを駆けずり回って、本を売り歩いている外売の人間である。

しかし、こうした地方書店の抱える個別の問題へのさまざまな取り組み以上に、読書空間の変化、「知」の変化にどう対応するのかが大書店・地方書店を問わず、本屋に重くのしかかっている課題である。

会員社『新刊一覽』

一九八二年版出来る／

販売委員会では、人文会二十社と歴史書懇話会十二社の協力を得て、昭和五十七年に出た人文・社会科学の新刊を網羅した、『人文科学・社会科学新刊一覽』を作製しました。

ジャンルを哲学・思想から家政学・生活科学までの十三と講座・シリーズを加えて千五百点を収録した、約六十頁の小冊子です。

書店の在庫チェックには大変に利用価値があります。

また外商拡販の材料にも最適に出来ております。特約店の皆様には一部つつお送り致しております。

書店各位の積極的なご利用をお願い致します。

お申し込みは、誠信書房・浜地まで、



特約店の選定を終えて

■ 調査企画委員会

本年は、人文会特約店制度が発足して八年目、第四回目の更新期に当たります。

調査企画委員会で会員全社のデータをまとめ、特約店・準特約店を選定させていただきましたところ、非常に厳しい結果が 나왔りました。

選定基準は、従来と変わりなく、次のような基準です。

- (1) 特約店については、
- (イ) 会員二十社中十二社以上と常備契約をし
- (ロ) 会員社の人文図書を一〇〇〇冊以上展示し、
- (ハ) 年間三〇〇〇冊以上販売されておられること。
- (2) 準特約店については、

＜別表＞①

	特約店	準特約店
49年	188	
51年	190	72
53年	197	80
55年	220	98
57年	161	75

- (イ) 会員社二十社中九社以上常備契約をし、
- (ロ) 会員社の人文図書を七〇〇冊以上展示するか、または年間二〇〇〇冊以上販売されておられること。

選定の結果は、別表①に記しました。①表でも明らかなように、特約店の店数が、この制度が発足して以来最低の数になり、また、準特約店の数も大同小異な状況です。

前回と比較して特徴的なことは、大都市の場台、国鉄・私鉄沿線の途中駅に在った特約店が姿を消し、また地方都市においては、複数あった特約店が、それぞれ一ないし二店になったことです。

県庁所在地級の地区では、旭川市・盛岡市・山形市・長野市・福井市・姫路市・鳥取市の各地区では、特約店が一店もなくなつてし

まいましたのが強く印象に残りました。

また、準特約店の分布状態で気になるのは、首都圏に比べて、近畿圏が店数が非常に少なくなっていることです。さらに、特約店・準特約店の両方が、一店もない県が三県ありますのも、大いに反省させられました。

このような厳しい状況のなかで、人文会々員各社は、より一層能動的に行動し、人文図書の普及をはかりたいと存じます。今後とも、特約店・準特約店の皆様、そして取次店各位の変わらぬご支援を賜りますようお願いする次第です。

最後に、人文会々員二十社の販売データから、人文図書の販売状況を別表②にまとめましたが、紙面の都合で一部分しか掲載できませんことを、お許し下さい。

人文会△特約店▽一覧表（※印は準特約店）

△札幌▽

旭屋 紀伊國屋 リーブルなにわ 富貴堂 北大学生書房 丸

善 ※三省堂

△旭川▽

※ブックス平和

△函館▽

森文化堂

- ▲青森▼ 成田本店
 ▲弘前▼ 今泉本店
 ▲秋田▼ 加賀谷書店
 ▲盛岡▼ ※さわや書店 ※第一書店
 ▲山形▼ ※東山堂
 ▲仙台▼ ※八文字屋
 ▲山形▼ アイエ書店 アイエ書店駅前店
 ▲仙台▼ 金港堂 金港堂ブックセンター
 ▲福島▼ 東北大学生協 宝文堂 丸善
 ▲郡山▼ 八重洲書房 ※高山書店
 ▲水戸▼ 岩瀬書店 コルニエツタヤ店
 ▲茨城▼ 川又書店駅前店 ツルヤブック
 ▲前橋▼ センター ※茨城大学協
 ▲太田▼ 丸善筑波大学
 ▲浦和▼ 煥平堂
 ▲大宮▼ ※ナカムラヤ
 ▲千葉▼ 須原屋 ※埼玉大学生協 ※須原屋
 ▲市川▼ 原屋コルソ店
 ▲船橋▼ 新栄堂 ※押田謙文堂
 ▲船橋▼ キディランド 多田屋セントラル
 ▲船橋▼ ※弘栄堂
 ▲船橋▼ 旭屋 西武ブックセンター
 ▲柏▼ ※芳林堂津田沼店
 ▲横濱▼ スカイプラザ浅野
 ▲横濱▼ 栄松堂ジョイナス店 有隣堂イ
 ▲横濱▼ セザキ店 有隣堂西口店 有隣
 ▲横濱▼ 堂東口ルミネ店 慶応大学日吉
 ▲横濱▼ 生協 ※丸善ブックメイツ
 ▲川崎▼ ※横浜国立大学生協
 ▲川崎▼ ※ブックセンター文教堂 ※江崎書店向ガ丘店
 ▲藤沢▼ 有隣堂
 ▲平塚▼ ※東海大学生協
 ▲小田原▼ 伊勢治書店
 ▲厚木▼ 有隣堂
 ▲千代田▼ 東京堂 信山社 三省堂 書泉
 ▲千代田▼ グランデ 丸善お茶の水店 明
 ▲千代田▼ 大本校生協 旭屋水道橋店 法
 ▲千代田▼ 政大学生協 ※プレスセンター
 ▲中央▼ 丸善 ※茗溪堂 ※政文堂 ※山王書房
 ▲中央▼ ※上智大学学生会館 八重洲ブックセンター 旭屋銀
 ▲中央▼ 座店 丸善本店 近藤書店
 ▲中央▼ ※福家書店 ※教文館
 ▲中央▼ 慶応大三田生協 ※虎ノ門書房
 ▲中央▼ 紀伊國屋 旭屋 三省堂 大盛
 ▲文京▼ 堂 青山学院購買部 ※国学院
 ▲文京▼ 大学生協 ※笹塚紀伊國屋
 ▲台東▼ 東大本郷生協
 ▲台東▼ 京成明正堂 ※明正堂中通り店
 ▲大田▼ 蒲田栄松堂
 ▲大田▼ 東大駒場生協 ※都立大生協
 ▲目黒▼ ※八雲堂 ※不二屋
 ▲世田谷▼ ※バルキリン堂
 ▲新宿▼ 紀伊國屋本店 三省堂西口店
 ▲新宿▼ 西武新宿ブックセンター 芳林
 ▲新宿▼ 堂高田馬場店 早大コープブラ
 ▲中野▼ ザ 早大文学部生協
 ▲中野▼ 明屋書店
 ▲杉並▼ 書原 ブックセラーズ西荻
 ▲杉並▼ ※明大和泉生協 ※ブックセン
 ▲豊島▼ ター荻窪
 ▲豊島▼ 芳林堂池袋店 西武ブックセン
 ▲豊島▼ ター 旭屋池袋店 三省堂池袋
 ▲武蔵野▼ パルコ店 新栄堂
 ▲武蔵野▼ 弘栄堂 パルコブックセンター
 ▲武蔵野▼ 紀伊國屋
 ▲三鷹▼ ※第九書房
 ▲立川▼ 鉄生堂 ※オリオン書房
 ▲府中▼ 啓文堂

- ▲国立 東西書店 増田書店 ※一橋大
 学生協
 ▲八王子 くまざわ書店 中央大学生協
 ▲町田 久美堂 久美堂小田急店 有隣
 堂
 ▲甲府 柳正堂
 ▲静岡 谷島屋 江崎書店 吉見書店
 ※静岡大学生協
 ▲沼津 宝塚マルサン書店
 ▲清水 戸田書店
 ▲浜松 浜松谷島屋
 ▲名古屋 三省堂 ちくさ正文館 近鉄星
 野書店 丸善 ニッシン上前津
 正文館 枅中三洋堂 名大南部
 生協 ※池下三洋堂 ※ウニタ
 ※日本福祉大 ※日進堂桜山店
 ▲豊橋 精文館
 ▲岐阜 自由書房 ※大衆書房
 ▲四日市 白揚
 ▲新潟 紀伊國屋 北光社 萬松堂
 ※新潟大五十嵐店
 ▲富山 清明堂 富山大学生協
 ▲金沢 うつのみや 北国書林 ※北国
 書林片町店 ※福音館 ※金沢
 ▲長野 大学生協
 ▲松本 ※平安堂長野店 ※長谷川書店
 ※遠兵
 ▲福井 ※ひまわり書店
 ▲京都 駈々堂京宝店 京都書院 丸善
 同志社大学生協 立命館衣笠生
 協 京都大学生協 オーム社
 ナカニシヤ ※リーブル京都
 梅田紀伊國屋 旭屋本店 旭屋
 なんば店 旭屋アベノ店 ユー
 ゴー書店 ※大阪市立大学生協
 ▲大阪 ヒバリヤ書店
 ▲東大阪 ※大阪大学石橋店
 ▲豊中 ※コーベブックス西武高槻店
 ▲高槻 関西大学生協
 ▲吹田 ジュンク堂 コーベブックス
 日東館書林 丸善 神戸大学生
 協※海文堂 ※ジュンク堂サン
 パル店 ※ユニカリ南天荘
 ▲西宮 ※甲南大学生協
 関西学院大学生協
 ▲姫路 ※誠心堂
 ▲奈良 南都書林
 ▲和歌山 宮井平安堂
 ▲松江 今井書店
 ▲鳥取 ※富士書店
 ▲岡山 紀伊國屋 弘栄堂 ※丸善 ※
 細謹舎本店 ※岡山大学共済会
 紀伊國屋 丸善 ※金正堂
 ▲広島 ※広島大学生協
 ▲山口 文栄堂書店
 ▲下関 ※中野書店本店
 ▲高松 宮脇書店
 ▲徳島 森住丸善書店 ※小山助学館駅
 東口店
 ▲松山 紀伊國屋 九三書店 ※愛媛大
 学生協
 ▲高知 金高堂 高知大学生協
 ▲福岡 紀伊國屋 リーブル天神 金文
 堂 九州大学法文生協 積文館
 金栄堂 ナガリ書店 ※井筒屋
 ▲北九州 八幡店
 ▲長崎 好文堂 ※長崎大学生協
 ▲熊本 紀伊國屋 まるぶん ※長崎書
 店 ※三章文庫
 ▲大分 本町晃星堂
 ▲鹿児島 鹿児島大学生協 坂口金海堂
 ▲那覇 球陽堂

<別表>② 人文書売上カード枚数ベスト50（人文会）

順位	地 区	書 店 名	枚 数	順位	地 区	書 店 名	枚 数
1	新 宿	紀伊國屋本店	94,512	26	京 都	京都大生協	13,293
2	大 阪	梅田紀伊國屋	52,032	27	渋 谷	紀伊國屋	13,169
3	大 阪	旭屋本店	42,777	28	神 戸	淳 久 堂	13,164
4	中 央	八重洲ブックセンター	40,356	29	新 宿	三省堂西口店	12,264
5	京 都	駿々堂京宝店	36,710	30	千代田	法政大生協	11,535
6	八王子	中央大生協	35,934	31	京 都	同志社大生協	11,420
7	千代田	神田三省堂本店	34,943	32	横 浜	栄松堂ジョイナス店	11,399
8	豊 島	西武ブックセンター	24,237	33	大 阪	ユーゴー書店	11,234
9	新 宿	早大本校生協	21,393	34	京 都	丸 善	11,119
10	文 京	東大本郷生協	21,359	35	広 島	紀伊國屋	10,552
11	千代田	書泉グランデ	20,921	36	新 宿	成 文 堂	10,180
12	千代田	明大本校生協	19,599	37	武蔵野	弘 栄 堂	10,138
13	豊 島	池袋芳林堂	19,576	38	札 幌	札幌旭屋	9,912
14	渋 谷	大 盛 堂	19,034	39	港	慶応大三田生協	9,808
15	名古屋	丸 善	17,979	40	大 阪	旭屋アベノ店	9,741
16	京 都	立命館大衣笠生協	16,443	41	千 葉	多田屋セントラルプラザ	9,629
17	目 黒	東大駒場生協	16,031	42	渋 谷	渋谷旭屋	9,625
18	新 宿	芳林堂高田馬場	15,485	43	横 浜	慶応大日吉生協	9,600
19	横 浜	有隣堂イセザキ店	15,004	44	札 幌	紀伊國屋	9,093
20	豊 島	池袋旭屋	14,896	45	西 宮	関西学院大生協	8,892
21	名古屋	三 省 堂	14,672	46	名古屋	日本福祉大生協	8,773
22	中 央	丸 善 本 店	14,097	47	中 央	銀座旭屋	8,709
23	横 浜	有隣堂西口店	14,062	48	茨 城	丸善筑波大会館店	8,521
24	福 岡	紀伊國屋	14,001	49	横 浜	有隣堂東口ルミネ	8,458
25	仙 台	東北大生協	13,324	50	名古屋	ちくさ正文館	8,066

82年 東販・日販ブックフェアを振りかえって

弘報委員会

読者と本との出会いの場を提供する、書店の棚を補完する、専門書を一堂にする等の主旨の下にブックフェアを開催し年を重ねて来ました。八二年にも主要都市を中心に、人文社会科学書フェアが行なわれました。

経費との見合い、頻度等の点で課題も生じて来ており、曲り角に来たという意識もないわけでもありません。

今回の実施を踏まえて、専門書の販売のさらに良いものを目指すという意味から報告を致したいと思います。

八二年に人文会が後援し、実施された大型フェアをまとめてみますと、以下の表のようになります。

主催社各々の評価及び反省は

「版元・書店の声を充分に活かし、運営・実行のプロジェクトを図り、会場・開催期間中、宣伝、PR等に万全の準備と体制で臨み、読者ニーズに応える場づくり」に専念した、東京会場は、テーマどおり公共、大学、

学校、企業の図書館を対象とし、書店への事前活動、DM等営業首都圏エリアの枠を拡げ

て案内し、十分にその結果を得た」(東販書籍部、吉葉氏談)

会場	期間	テーマ	展示点数	入場者	売上額
東 販	東販本社 名古屋 千代田生命ホール 大阪支社 札幌支社	10/19~22 4日間 '82人文社会科学書 20,000点フェア 新しい時代の図書館づくりをめざして いまの本と読者の出会い 科学と技術の総合フェア '82自然科学書 20,000点フェア		2月末確定	—
日 販	横浜産業貿易センタービル 名古屋	8/20~22 3日間 '82明日の文化 理工文社会科学 40,000点フェア		7,353人 7,890人	117my 65my

「開催日が八月となり、学校、図書館、官公庁への配慮には欠け、会場の変更も入場者数で前回を若干下まわったものの、DM・訪問先では集中・重点主義をとり、販売面で多大の効果となった」

「名古屋では初入場者が全体の五四%とまだ潜在読者を獲得する余地のある点には気を強くした。同地区の継続開催の必要を感じた」(日販仕入部、杉山氏談)というコメントを得られた。

販売面では、両社とも目標を達成し、目的もある程度充足したと言えよう。人文会でも今後さらに効率的、効果的な専門書販売のノウハウを追求し、書店、取次店共にその努力を進めてゆきたい。

△店頭レポート▽

旧定価本・在庫僅少本セール

岩波ブックセンター信山社 後藤 裕

恒例になった神田古本街の青空古書市は、首都圏のいわゆる本好きの人々を集めて、年を追って、そのにぎわいを増しているようです。

神田神保町の一角に位置する私どもの店では、毎年、この期間△一〇月二七日～一〇月三日▽を利用して、特別フェアを行なっておりますが、今年は、本好きの、とりわけ専門書の読者に応えるべく、人文社会科学書を中心とする旧定価本及び、各出版社の持っている在庫僅少本を集めて、特別ブックフェアを行なうことを考えました。そして私どもの店と関係の深い岩波書店及び、人文会と歴

史書懇話会の会員各社に呼びかけ、その協力をお願いすることから始めたのです。

呼びかけの内容として、展示場所は店内でのメイン通路、展示スペースは三尺棚三段、平台四〇点、展示冊数一、二〇〇冊、期間は古書市一週間を含む一カ月、その後は、スペースを縮小して二カ月、成績によっては、常設棚に移行する、出店品目についてはジャンルの限定はなし、鈴木書店帖合で三カ月延勘というものでした。もちろん、私どもの目論見では、期間中、つまり、一週間で半数近くを売り捌く自信は持っておりません。何故なら、埋もれた良書を求めて、極めて多

数の読者が群がる一週間だからです。しかし、一方の出品する版元の側に立ってみますと、旧定価本及び、常備品目に組み込まない在庫僅少本の出品は、流通の日常作業以外の仕事であり、特に出品から返品までに至る煩雑さに比して、版元側のメリットが、経済的にも、イメージの面でも、小売書店が意気込む程多くは持ち得ず、書店と版元との想い込みに、若干の相違点をみる事ができるのでした。したがって、版元が出品し易い条件を配慮して、呼びかけの内容としたわけです。そして、これら条件に加えて返品を極力押えるよう格別の努力を行なうことを強調し、結果

として、伝え聞いた会員社以外の専門書版元からの出品も含めて、各社より二〇一冊の出品を頂くことができたのです。

古書市期間中は、好天にも恵まれ、客足も順調で、当初の目論見通り、一週間で一〇〇〇冊近くの売れ行きを示すことができました。岩波書店、筑摩書房、未来社、みすず書房等が出品点数も多く、したがって、売上げ冊数も群を抜いていたこと、品切れ本として書店の棚から消えてしまつて久しい、安くて若干汚れた本から売れていった事が特徴的なことでした。初日に、近くの古本屋さんが買い漁っていた事なども、お愛嬌の一つでした。期間中、熱心な版元の営業の方が、補充品を風呂敷に包んで運んで下さるとか、きめ細かい協力が、売上げの大部分の原動力となつていたことも見逃せません。結論的に言つて、今回の特別ブックフェアの成果は、売上げ増大もさることながら、読者と本とを合わせる、本来、書店が持つべき基本的で重要なサービス面での充足という点で、はなはだ大きいものがあつたと思われまふ。そして、さらに好ましいことには、その後もコンスタントに回転し、一月末までのフェア

終了後も、三尺棚、二列十四段の常設棚を持つ見通しがついたことでした。ブックフェアとしては、理想的な形で、その幕を閉じたと自負しております。

「良い本が売れない」と言われて、かなりの年月が過ぎています。新刊書店の中に、旧定価本及び、在庫僅少本を（たとえそれが、どれ程素晴らしい本であつても）どう位置づけるかということは、流通の問題を含めて、なかなか難しいことがらです。しかし同時に、時と所を得れば、埋もれた良書も目の目を見ろという現実も、確かに存在すると思ひます。もつと言へば、それに加えて、書店と版元との共同作業の密度によつては、かなりの売上げ効果も期待できる事を実感しました。



人文会山陽道みてある記

——神戸・岡山・広島地区書店研修会報告——

弘報委員 菊池明郎

人文会と全国各地の書店・取次さんとの交流を深める研修旅行も昨年で十五回を重ねるに至りました。快晴、温暖という絶好の条件の下に、東販書籍部安井次長、日販書籍仕入部渡辺課長に御同行頂き、一〇月一日から一六日まで、神戸・岡山・広島地区で実施致しました。広島・岡山は九年ぶり、神戸も六年ぶりの訪問ですが、書店さんの新・改築、取次さんの移転等随分あったので、会員各社とも期待に胸をふくらませて出かけました。訪問した書店・取次さんは次の通りです。

神戸市——海文堂、漢口堂、神戸大学生協、淳久堂、淳久堂サンバル店、日東館、丸

善、ユーカー南天荘、東販、日販（明石市）
岡山市——岡山大学共済会、紀伊國屋、弘栄堂、細謹舎、丸善、東販、日販
広島市——紀伊國屋、金正堂、広文館、積善館、広島大学生協、フタバ図書、平和書房、丸善、東販、日販
なお今回はさらに図書館事情の調査という観点から、広島市立図書館を訪問し、書庫等の見学をした上で懇談会をもちました。

ミナト神戸へ

一〇月中旬にしては暖か過ぎるくらいの好天の中、早朝の新幹線で、まず西明石へ。住

宅団地の中の日販神戸支店にお邪魔しました。森田支店長をはじめとする皆様から、概況の御説明を受け、店売を見学させて頂く。この後、神戸市にひき返し東販を訪問し、同様のレクチュアを佐藤支店長他御一同様から受けました。時間の制約もあったので二班に分かれて、市内の書店見学に出かけました。海洋博を経た後の神戸はより美しい街になったという印象を私達一行に与えていましたが、ゆっくり三宮や元町の繁華街をぶらつく暇などこれっぽっちもないような有様。時計を気にしながら、脱鬼のごとく書店さんを目ざしたのでした。

新装で美しく広く、商品量も豊富になったお店が多く、さすがだなと思いましたが、星は意外にお店がすいています。商圏としては三〇〇万人の客をかかえ、人口一四〇万人の神戸市も、大阪への通勤、通学が多く、また地元の大学が極端に少ないということもあり、器の方がお客を追い越したという危機をもちました。しかし夕方頃になると、それも取り越し苦労にすぎないことが、あふれんばかりのお客さんによって証明され、安心致しました。

いずれの書店さんも独自の工夫をされて、専門書販売の努力をされているようにみうけましたが、中でも淳久堂サンパル店さんは、その努力を窮極にまで高めたものとして、圧倒されました。開店当初から専門書販売の書店として位置づけられた同店は、まるで図書館を思わせるような、背丈の高い書棚をはりめぐらせ、本好きや研究家など要求度の高い読書家にも、豊富な店頭在庫と独特のディスプレイで迫ってきます。工藤社長の言では、大阪や東京と比べて、読者の必要とする点数は変らない（変るのは一点当りの冊数）ので、あえて、このような在庫をもったサンパ

ル店の開店を試みられたということです。同店ではそれだけにとどまらず、読書家むけのユニークな情報誌『書標』を毎月発行し、地元の方々に広く受け入れられ、また同店外商部も、有効にリンクした活動を展開されているそうです。調査の結果では、四国からのお客さんもあるそうで、当地における専門書販売店の順調なすべり出しは、私達人文会にとりまして、誠に嬉しいことでした。

秋晴れの中国路

地元の書店さん、取次さんとステークや海の幸を賞味し、真面目に本にまつわるディスカッションを深更までした疲れもとれぬままに、翌日早朝には岡山へとむかいました。

神戸の場合と同じく、東販、日販両取次で最新情報を仕入れた後、東販小澤、日販猪俣両支店長さんに御案内頂き、岡山市内の書店さんを訪問しました。あいにく、表町の多くのお店の定休日と重なり、日々の商店街の状況をこの目で確かめるわけにはいきませんでした。細謹舎さんは、定休日のうえに、前社長さんが亡くなられてまだ間もないというにもかかわらず、わざわざ私達のために店内見

学をさせて下さいました。他にお客さんがいない書店見学もまた味なもの。何気兼ねなく、隅から隅までじっくり拝見できました。こういう経験もめったに出来ないものです。定休日にもかかわらず、私達を心から歓迎して下さいた皆様に、改めて感謝申し上げます。神戸店とともに確実に専門書の普及に努力されている丸善さん、また読書の秋をむかえ賑う岡山大共済会さんを見学した後、オープンしてから丁度十年が経つ紀伊國屋さんと、懇談会をもちました。

岡山市は人口五五万人で、広島に次いで中国地方第二の都会であり、新幹線が岡山まで延長された時に紀伊國屋さんが出店されたということです。

二度ほどの改装を経て今日ではすっかり当地のお客様に親しまれ、安定的に成長をされているそうです。

不振が叫ばれる人文書も、前年比でそこそこの伸びを示しているそうですが、実際はほとんどが横這いの中で、教育書・精神世界の本の健闘が目立つということです。

地元取次さんへの不満点は、専門書在庫量の不足ということで、岡山だけの問題ではな

いかかもしれませんが、取次さんにも改善へむけて、御努力をお願いしたいと各社共感をもって聞きました。

最近はやりの郊外店の影響はないが、倉敷市の再開発に伴って、学生の来店数に影響が出るかもしれない点を懸念されているとか。

人文書関係の配本はおおむね適正で、発売日から一カ月分くらいの量はきているそうです。また朝日新聞等の書評に出た本も、書評に出てから発注しても、店頭品切れは起きないということです。

常備カードの他、必備カードを入れる基準は、発売後一定期間がたっても依然動き続けている新刊か、常備に入っていないとも一年にある一定回転することがデータで分っているものということでした。

人文会に対しては、著者の自信喪失の回復も含めて、もっと積極的になるようにとの檄が飛ばされて、懇談会は幕となりました。

この後、もう一つの中心街である駅前に戻り、弘栄堂さんを見学したあと、あわただしと新幹線に飛び乗り、平和都市ヒロシマへと向いました。

平和都市ヒロシマで

この町は不思議なもので、今回のように商売を目的とした旅でも、足を踏み入れたとたん、自ずと敬虔な気持ちにさせられてしまいます。百万平和都市として栄える広島も三十九年前は一面一瞬にして焼野原だったわけですが、時間があれば原爆ドームへも行ったかったです。残念ながら今回は、祈りの心をもちまして、書店さん訪問となりました。

神戸、岡山と同じく東販・日販さんへお寄りし、最新情報を仕入れたところで、二日目はもう黄昏時となり、東販石川、日販北原両支店長を無理矢理連れ出し、夜の街へと繰り出しました。両支店長の粋なはからいで、東京ではまだとても味えない、生ガキをたらふく食べ、翌日のハードスケジュールに対する備えをし、三三五五、夜のヒロシマへと散りました。

翌朝眠い目をこすりながら、まず広島大学前の平和書房さんにお邪魔し、広島大学生協さんを次に訪ねました。移転問題等いくつかのテーマで懇談会を行なったあと、開店直後の本通りの商店街へ、そろそろへばり気味の

一同は歩を進めました。人文書販売で最近善戦のフタバ図書さん、安定したお力を發揮されている、金正堂、積善館さん、広文館さんの御三家、改装目前の丸善さんを拝見した後、宮城新店長を迎えて張り切る紀伊國屋さんスタッフ御一同と話し合いをしました。

政令都市広島市中心街、バスセンターに店を構える紀伊國屋さんの悩みは、客層が百貨店型、つまり婦人、子供のウエイトが高いことにあるようです。オープンしてから八年間、ミニ本店、ミニ梅田店の商品構成をしてきたが、見直しをしなければならない時期にきているということでした。あわてた人文会側が人文書や社会科学書は減らされてしまうのでしょいかと聞き返すと、専門書の比率は一定にしておきながら、他の分野の比率の修正をはかるということ、まず一安心でした。しかし、昨今の販売の厳しい現実をつきつけられたようでもあり、各社売上向上への決意を新たに、早速常備や返品についての各社の考え方を述べ、増売をお願いしおひらきとなりました。

さて、最初にも報告しましたが、今回は広島市立図書館の御好意で、館内見学と、中田

館長さんをはじめとするスタッフの方々との懇談会をもてましたので、以下要点を紹介いたします。

広島市は人口九〇万人の政令都市だが、図書館は当館の他に、県立中央図書館と子供図書館の三館だけなので、いずれ七つの区にそれぞれ一館ずつ図書館を作りたい。しかし、規模は五万冊程度を蔵書とし、区民センターの中に併設ということを考えているそうです。

そして今新設中（五八年オーブン）の図書館で大きく変わるところは、貸出しを最初からコンピュータを使い、五九年度以降できる図書館とオン・ラインで結び、検索もあるいは図書の整理も一切オン・ラインで行ない、図書館の一体的な運用を計ろうとしています。またカタカナ入力ではなく、漢字入力も広島の特徴といえるそうです。これはサービス会社と協力し、コンピュータのリースを受けて進めるそうです。

したがって区にできる図書館は貸し出し専用ということになり、それ以上のレベルを中央館が受け持つというシステムを考えています。資料などについては、電々公社の回線か

ファクシミリで中央館から区の図書館へ転送するといふようなことになるようです。

最近本が売れなくなっている原因は、図書館で見ている限り、コピーのせいではないかと思えるそうです。なぜなら、昔は筆写すれば時間がかかった本も、今ではお金を出せば百ページといえども簡単にコピーができることから分るということです。そのかわり、百科辞典を切り抜かれるようなことはなくなつたそうです。

貸レコード屋が出現してあれだけレコード業界が騒ぐのだから、この業界ももっと早くから著作権法の保護に目をむけて、コピー公害に対抗すべきだったのではないかと指摘がありました。

広島県でも市に図書館のないところがあり、県立図書館が車で回るといふことになっているけれども、将来は市の図書館が一線図書館になり、県立図書館は資料性のあるものを蔵書し、各市図書館をバックアップする形が理想と考えているそうです。

購入は原則として一点一冊で、当然収書基準に従って選書はするけれども、年間数百件あるリクエストはこの基準を満たしている限り

優先するそうです。

当館は六〇万冊納収できるという設計でスタートしたが、現在一五、六万冊で書庫が一杯の感じだそうです。雑誌や新聞が思わぬスペースを取ることが原因だそうで、流通にのっている雑誌全部を揃えるわけにはいかないということです。

新刊案内等は色々な資料に目を通されるそうですが、現物の見計らいで六〇％くらいの書籍は購入するそうです。

この色々な問題が論じられましたが、全てを紹介することもできませんので、この程度にとどめますが、読者の大きな一翼を担う図書館のナマの声が聞けたことは、今回の研修旅行の大きな収穫でした。紙上から失礼ですが、中田館長さんをはじめとするスタッフの皆様に感謝申し上げます。

安芸の宮島

以上御報告致しましたように、大変なハードスケジュール（ここ四、五年で最高）を無事になした一行は、ほっとした気持で、宮島行きの連絡船へ飛び乗りました。

連絡船の中でも立ち上がる元氣も無いとい

った感じで坐り込む者、宴会の前の下地作りに余念の無い者等々、さまざまなスタイルで、日本三景の一つ、名勝宮島見物となりました。伝統を誇る「岩惣」に投宿し、余力が残っているメンバーは、厳島神社にお参りをしたり、鹿のいる公園を散歩するなどし、仄かに色づきはじめた、秋の宮島を満喫しました。その夜の打ち上げの宴も、無事終了したことは、言うまでもありません。

今回の研修旅行では、コーベブックスさんをはじめとして定休日等で訪問できなかった書店さんがいくつもありました。スケジュール調整がうまくいかなかったことをお詫び申し上げます。

神戸・岡山・広島の本屋、取次さんには、何から何までごやっかいになりまして、すみませんでした。お蔭様で、有意義な研修旅行になりました。改めて厚く御礼申し上げます。



「総合の学」としての

神秘学

神秘学をお送り致します。精神世界、瞑想と「心」を主体とした棚の動きが注目されるのは不安な時代の表われでしょうか、また定着し確立されてゆくでしょうか、人文書担当者の参考となれば幸いです。今回は文化人類学を予定しています。

弘報委員会

平河出版社 舟岡 郁子

最近、人文関係の棚が少し変わってきた。

世紀末、二一世紀を意識した本が並びはじめている。しかし少し変わってきたというのは、そのことではない。都内の大手書店では△精神世界の本▽という棚が定着し、読者にも馴染みの存在となっている。そこに神秘学という新たな分野が加わったのである。神秘学とはいったいかなる△学▽なのか。地質学、心理学、医学というのならすぐにわかるが、△神秘▽に学がついたらどうなるのか。

欧米では、十年以上も前に Mysticism (神秘主義)、あるいは Occultism (オカルト) という棚が設けられ、古今東西を問わず広範

囲の書籍をとりそろえている。この手のものを一手にひきうけた書店もでき、専門カタログ類も発行されている。神秘主義とは△個人の体験を通して得られる覚醒▽をさし、オカルトとは△隠された知の体系▽を示す言葉で、日本で一般にいわれるオドロオドロしい意味でのオカルトとは異なっている。

日本においていえば、精神世界の本と銘うたれた一連の書籍が、少なからず人間を突きつめたところの△意識の覚醒▽にふれているのに対し、ニューフェイスともいえるべき神秘学は、明らかに△隠された知の学体系的な体系▽を問題としている。

なぜ今ごろそれが問題に？ と疑問をおもちになる方もあるだろうが、それに答えるには、現在までの本の流れを見ていかなければならないだろう。

紀田順一郎氏は、戦後のベストセラーを大きく三つの時期に分けている。

第一期——戦後教養時代

第二期——大衆化時代

第三期——多様化時代

つまり、「戦後間もないころ、人々が新しい知識や教養の糧を欲していた時代」↓「余裕ができてのしめとしての読書を求めはじめた時代」↓「戦後の世の中が成熟期に達

し、新しい生き方を求めて試行錯誤が始まった時代」の三期だという。

まさに現代は、この第三期の後期であり、新世紀に向けて第四期の胎動が始まっている。六〇年代から七〇年代にかけての高度成長の裏で、崩れはじめた人間関係の不安にもない『冠婚葬祭入門』（光文社）、『誰のために愛するか』（青春出版）が売れ行きを伸ばした。しかし昭和四八年の石油ショックは、それまでの流れを変えてしまう。外側に向かっていった意識が、経済不安とともに内側に向かいはじめたのだ。『カモメのジョナサン』（新潮社）、『限りなく透明に近いブルー』（講談社）などは、旧体制から翔びたとうとする若者の憧れと屈折の両極面を示している。

その後、『ルーツ』（社会思想社）、『不確実性の時代』（TBSブリタニカ）と、自分の状況、血縁の確証を求めた本がヒットし、さらに日常の不可思議にひとつのルールを見出すように『算命占星学入門』（青春出版社）、『天中殺入門』（同）がそれに続く。そして、本来の教育の原点を問いなおす昨年の空前のヒット『窓ぎわのトットちゃん』（講談社）

は、記憶に新しい。

一見、風俗を反映しているように見えるベストセラーだが、石油ショック以降の意識の内面化は進んでいる。「このままの自分の生き方は本当によいのだろうか」と自問する人びとが増えはじめ、それは精神世界の本に向かう人、朝日カルチャーセンターなどの知的向上をめざす人、あるいは自然との結節点を求めて、アウト・ドア・スタイルを楽しむ人といった具合に、多様な群像を生み出した。また一方では、選ぶ権利は自分自身のもの、誰の押しつけもゴメンだという、情報の多様さと量とをほこるカタログ文化が生まれた。

この底流にあるのは、自分自身の生き方を再確認し、新たな意識をもちたいという願望である。ブランド商品がヒットしたのも、品物をもつ私に力点が置かれたからであり、猫も杓子ももつようになれば、当然流行も終わる。

さて、なぜ神秘学かという点である。自己の立脚点を求め、自分自身として生きていこうとする人びとの動きと軌を同じくして精神世界の棚が生まれた。西欧文化を自己を映す鏡としていた時期が去り、東洋精神の中に、

精神としての人間の総体を探ろうとする動きが出てきたのである。自然食、シェイプアップなど、健全な心身を意識した本が売れはじめるのもこの動きに関連している。

では、ムード、ブームとしての東洋精神見なおしが過ぎた後、その次に必要とされるのは何か。そこに神秘学が出現する。神秘学とは、人と新たな覚醒を結ぶ隠された知の体系である。人間を中心とし、外界を対象物とする研究データの上に発展してきた近代科学では解決不能な多くの問題に対し、隠され、切り捨てられてきたもうひとつの「人字V」の存在に照明が当てられたのだ。つまり、人間と外界とを別個に分けてとらえるのではなく、総体としてとらえようとする試みである。

人間を細胞に分割し、細胞をさらに原子のレベルにまで分析しても、生命の神秘は解明されない。科学が部分の学へと発展し、全体を見失うほどにまで至ったとき、『タオ自然学』や『生命潮流』『タイム・ワープ』などの著者たちが、部分と全体を同時に見据える科学の必然性を説きはじめたのは決して偶然ではない。この部分と全体の問題は、日常生活の中にも起こっている。教育における知育

と人格の問題、医療における患者の精神と肉体の問題……。

東洋、西欧の思想の基盤を裏面から支えてきた神秘思想の根源を「学」Vとしてとらえなおすとき、そこに部分を超える宇宙観、人間観が展開する。スエデンボルイ、シュタイナーをはじめとする神秘哲学者の唱えたシステム、また密教、禅、ヨーガの内包するシステムと哲学、そしてイスラム神秘主義スーフィーにおける精神浄化のプロセス。これらは、すべて、人間と宇宙をトータルなものとしてとらえる視点に支えられている。『世界神秘学事典』（平河出版社）、『イメージの博物誌』（平凡社）『象徴哲学体系』（人文書院）『神智学大要』（たま出版）などの最近の出版物は、これへの意欲的な試みである。

しかしここで留意しておきたいのは、「神秘学」Vは単なる学の体系ではなく、個の「体験」Vを通してのみ理解しようという一面をもっていることである。それぞれの神秘主義に行法が必ず含まれているのはそのためである。「神秘世界」Vが新たな覚醒への主観的な方向を示すのに対し、「神秘学」Vは「神秘世界」をも含めた知の体系を開示しようとするので

ある。有機的なつながりを重視する、精神の生理学ともいべき学は、読者にも既成のわくを超えた読書体験をもたらすだろう。

そして、部分と全体という二つの観点を包む「神秘学」Vは、継承されてきた太古の知恵を掘りおこすことに留らず、科学、医学、人類学にも及ぶ新しい書籍を生みだすことになるだろう。二一世紀への新たな一歩は、これまでの世界のとらえ方の「学」Vを俟ってはじまる。

『E・T』が、ハートを忘れた宇宙開発に對抗し、異星人と人間との交感を「愛」Vでくくって爆発的人気をさらったことも、決してこのこととは無縁ではないのである。最後に棚構成と基本図書について考えてみたいと思う。

一九八一年一二月に発売された荒俣宏編著による『世界神秘学事典』（平河出版社刊）が、「総合的学」Vとしての神秘学を主題にした書籍であり、売行きからしても神秘主義をトータルに学ぼうとする読者の増大が事実として認識できると考えられる。この本の基本的モチーフは「普遍」Vへのグローバルな追求であり、世間一般が有しているオカルティズ

ムのイメージを一掃しているといえよう。

そして八二年五月に三省堂書店本店において開催された「世界神秘学フェア」は『世界神秘学事典』の参考文献を全点集めて、売行きも良くて、神秘学の分野は八〇年代の人文棚を十分に担う、無視できない潮流であることを認識させてくれたのである。

「精神世界の本」の棚に神秘学関係の多様な書籍が席を占める場合、他の分野の書籍との内的な共通の磁場をどこに設定するか。生きた棚に育てあげるポイントとは、自然科学、それもニューサイエンスを組みこむことではないだろうか。なぜならエントロピーの法則にみられるように、従来、予言者や宗教の特殊である地球崩壊、末期への警告が、今日、科学の方から提出されており、宗教・哲学が今後ますます自然科学と手を組まなければやっつけ行けない状況にきているからである。さらにSF、幻想文学、霊的世界、世紀末とエートピアといった分野を結合させていくことでユニークな棚が作りあげられるのではないだろうか。精神世界の本の棚は基本的に超ジャンルの水平思考であるが、神秘学とその周辺は縦横をさらに拡大、深化させていくもの

と思われる。来年以降、西洋神秘主義の名著の翻訳の活発化、東洋の古い宗教—ゾロアスター、スーフィーへの興味、日本においては神道や道教等の再認識といった動きのなかで、今後、神秘学が一層注目されてくると思う。

終りに、神秘学関係の文献をあげておきます。

- 象徴哲学大系 全四巻、マンリー・P・ホール 人文書院
- 高等魔術の教理と祭儀 エリファス・レヴィ 人文書院
- 注目すべき人々との出会い G・I・グルジェフ めるくまーる社
- イスラム事典 日本イスラム協会編 平凡社
- イメージの博物誌 全十六巻 平凡社
- 覚醒への戦い C・ウィルソン 紀伊國屋書店
- 意識の進化と神秘主義 T・ローザック 紀伊國屋書店
- 生命潮流 F・カブラ 工作舎
- 大博物学時代 荒俣宏 工作舎
- 世界観としての建築 上松佑二 相模書

房

○現代宗教 1と5 春秋社

○阿含經典 全四巻、増谷文雄 筑摩書房

○科学思想の歩み C・C・ギリスビー
みすず書房

○ユートピア思想史 M・ベルネリ、太平出版社

○ヘルメス叢書 全七巻 白水社

○存在の大きいなる連鎖 A・O・ラブリョイ 晶文社

○心靈現象の心理と病理 C・G・ユング
法政大学出版局

○運命の槍 T・レブンズクロフト サイマル出版会

○神智学大要 全四巻 A・E・パウエル
たま出版

○世界のオカルト文学総解説 由良君美編
自由国民社

○偶然の本質 A・ケストラー 蒼樹書房

○実現されたユートピア 月尾嘉男他
鹿島出版会

○神秘学講義 高橋巖 角川書店

○美術史から神秘学へ 高橋巖 風の薔薇

○神秘学序説 高橋巖 イザラ書房

○いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか R・シュタイナー イザラ書房

○アカシヤ年代記より R・シュタイナー
国書刊行会

○世界神秘学事典 荒俣宏 平河出版社

○神秘学オデッセイ 荒俣 高橋 平河出版社

○グルジェフ・ワーク K・R・スピース
平河出版社

○奇蹟を求めて ウスベンスキー 平河出版社

	孤独の迷宮	オクタビオ・パス 高山智博・熊谷明子訳	4 6	2,500円
	物の体系	J・ボードリヤール 宇 波 彰訳	//	2,200円
み す ず 書 房				
神谷美恵子著作集10巻	日記・書簡	神 谷 美恵子	4 6	1,600円
	夜と霧	フ ラ ン ク ル	//	1,300円
	歩きながら考える	矢内原 伊 作	//	1,700円
神谷美恵子著作集1巻	生きがいについて	神 谷 美恵子	//	1,100円
朝永振一郎著作集6巻	開かれた研究所と 指導者たち	朝 永 振一郎	//	2,200円
未 来 社	後衛の位置から	丸 山 真 男	A 5	1,200円
	パレスチナ問題と は何か	中東の平和をもとめる 市民会議編	//	1,500円
	現代政治の思想と 行動	丸 山 真 男	//	2,500円
	伊豆風土記	山 田 兼 次	4 6	1,600円
	微塵と出現	埴 谷 雄 高	//	1,800円
有 斐 閣	現代の医療問題	菅 谷 章	4 6	2,100円
	日本的集団主義	濱 口 恵 俊他	//	1,500円
	地域生活の復権	蓮 見 音 彦他	//	1,600円
	生涯学習の時代	市 川 昭 午他	//	1,600円
	一人ひとりを活か す教育相談	東京学芸大学 教育相談研究会	//	1,700円
吉 川 弘 文 館	日本考古学概論	斎 藤 忠	A 5	3,800円
	鎌倉新仏教成立論	大 野 達之助	4 6	2,000円
	江戸の夢の島	伊 藤 好 一	//	1,200円
	国家神道と民衆宗教	村 上 重 良	//	2,600円
	歴史手帖83年版	吉川弘文館編	三五	700円

	美意識の発生 都市問題の系譜	佐々木 斐夫編 磯 村 英 一	B 6 〃	2,500円 1,800円
東京創元社	自由からの逃走	E・フロム	4 6	1,200円
	脱学校の社会	イヴァン・イリ ッチ	〃	1,100円
	夢の精神分析	E・フロム	〃	1,300円
	政治と言語	クラウド・ミュ ーラー	〃	1,500円
	人間に於ける自由	E・フロム	〃	1,500円
東京大学出版会	偶然の科学	竹 内 啓編	4 6	1,800円
	医師の証言長崎原爆 体験	調 来 助他	〃	2,400円
	川崎庸之歴史著作集全3巻 1 記紀万葉の世界	川 崎 庸 之	〃	3,200円
	2 日本仏教の展開	〃	〃	3,200円
	3 平安の文化と歴史	〃	〃	3,200円
日本評論社	西洋学事始	樺 山 紘 一	菊	2,800円
	精神科治療の覚書	中 井 久 夫	4 6	2,000円
	日本の病院	一 条 勝 夫	〃	1,800円
	社会のなかの感染症	福 見 秀 雄	〃	1,800円
	「人民日報」読者 来信	中国研究センタ ー編	〃	1,500円
福村出版	手話を学ぼう生活篇	中 野 善 達他	4 6	1,300円
	〃 社会篇	〃	〃	1,300円
	〃 短文篇	〃	〃	1,300円
	狼に育てられた子	シ ン グ	〃	1,000円
	女性の心理	国 分 康 孝	〃	1,300円
平凡社	中国の歴史(1)	陳 舜 臣	A 5 変	1,600円
	中国の名詩(4)	田 中 克 己訳	〃	1,100円
	地球時代の食の文化	石 毛 直 道編	4 6	1,200円
	音楽大事典(4)	野村 光一他編	4 6 倍	7,000円
	ルキーノ・ヴィス コンティ	M・スターリング 上 村 達 雄訳	4 6	2,000円
法政大学出版局	みちのく山河行	真 壁 仁	4 6	1,800円
	ドイツ民俗紀行	坂 井 洲 二	〃	2,200円
	木の実	松 山 利 夫	〃	2,000円

	昭和映画世相史	児玉数夫 吉田智恵男	4 6	2,300円
	三六五日事典	社会思想社編	〃	1,800円
春 秋 社	行革は日本を変える	加 藤 寛	4 6	980円
	どんな子も捨てられない	若 林 繁 太	〃	1,300円
	道元を読む	森 本 和 夫	〃	1,500円
	小さなマザーテレサたち	梶 川 宏編	〃	1,200円
	白隠ものがたり 一夜船閑話に寄せて一	おおい みつる	〃	1,300円
晶 文 社	子どもの文化人類学	原 ひろ子	4 6	980円
	小児病棟の子どもたち	向 井 承 子	〃	1,200円
	子どもが家を出ていくとき	リチャーズ&ウィルス 片岡しのぶ訳	〃	1,200円
	ちちははのくにのことば	国 分 一太郎	〃	1,600円
	活字文化の誕生	香 内 三 郎	A 5	3,500円
誠 信 書 房	シーイング 〈錯視・脳と心のメカニズム〉	J・P・フリス ビー	A4変	3,800円
	荒唐する親子関係	黒 川 昭 登	4 6	1,500円
	永平寺の四季	小 倉 玄 照	B 6	1,800円
	自我同一性	E・H・エリクソン	A 5	2,500円
	誠信心理学辞典	外林 大作他編	B 6	3,800円
筑 摩 書 房	去るも地獄残るも地獄	鎌 田 慧	4 6	950円
	「ガロ」編集長	長 井 勝 一	〃	950円
	教育の再生をもとめて	林 竹 二	〃	1,300円
	同時代への挑戦	色 川 大 吉	〃	1,600円
	象徴交換と死	ボードリヤール	〃	2,800円
東海大学出版会	星の処女神 エリザベス女王	西 澤 龍 生 正 木 晃訳	A 5	3,000円
	カテドラルのある風景	尚 樹 啓太郎	A 5 変	2,500円
	異文化とコミュニケーション	岡 部 朗 一訳	B 6	2,800円

会員社ベスト 5 (9月—11月より)

	書 名	著者名	判型	定価
青 木 書 店	戦時下の唯物論者たち	古 在 由 重	4 6	1,400円
	現代の家族	布施 昌子他編	//	2,200円
	太平洋戦争史論	藤 原 彰	//	1,600円
	日本の大学改革 1	寺崎 昌男他編	//	2,000円
	百人一首の秘密	林 直 道	//	1,400円
大 月 書 店	講座今日の日本資本主義10巻	笠野 信 雄 沢 正 徳	A 5	2,000円
	青年の選択と現代	泉 信 三	4 6	1,200円
	子どもの本の選び方・与え方	鳥 越 信	新書	400円
	科学全書 4 ビル火災	室 崎 益 輝	B 6	1,200円
	井尻正二選集 7 随想感想と思想	編集委員会編	4 6	2,000円
紀伊國屋書店	水土の経済学	室 田 武	4 6	1,700円
	永遠の少年	M・L・フォン・フランツ 松代洋一・椎名恵子 訳	//	2,500円
	愛するということ	E・フロム 慇 田 克 訳	//	800円
	セルフコントロール 医学への道	石 川 中	//	1,400円
	男の脳と女の脳	川 上 正 澄	//	1,700円
勁 草 書 房				
講座記号論 4 現代美学双書 4	日常と行動の記号論	川 本 茂 雄 田 島 節 夫他編	A 5	2,700円
	人形と情念	増 淵 宗 一	4 6	1,900円
	ウィットゲンシュタインの夢	奥 雅 博	//	1,800円
	暴力のオントロジー	今 村 仁 司	//	1,800円
	ゾルゲ事件と現代	尾 崎 秀 樹	//	2,000円
社 会 思 想 社	アトミックソルジャー	ハワード・L・ローゼンバーグ 中尾ハジメ・アイリーンスミス 訳	//	1,200円
	脳と言葉	荒 井 良	4 6 変	1,300円
	菊と刀	ルース・ベネディクト 長谷川 松 治訳	4 6	1,200円

●会員社受賞・テレビ化作品

昭和五十七年度に人文会各社が受賞またはテレビ化等が予定されている書籍一覧です。
販売、棚のチェックにもご利用下さい。

△受賞作品▽

春秋社

サントリー学芸賞

「日本の景観」樋口忠彦著 一、六〇〇円

芸術・文学部門

筑摩書房

日経経済図書文化賞

「産業組織論」植草益 三、八〇〇円

沖縄タイムス出版文化賞

「琉球の時代」高良倉吉 九〇〇円

サンケイ児童出版文化賞

「決断するとき」大内延介 一、二〇〇円

野間児童文芸賞

「遠い野ばらの村」安房直子

一、四〇〇円

法政大学出版局

第三六回毎日出版文化賞

「みちのく山河行」真壁仁 一、八〇〇円

第一九回日本翻訳文化賞

「一八世紀社会主義」アンドレ・リシュ
タンベルジュ

野沢協訳

一三、〇〇〇円

有斐閣

サントリー学芸賞

「国際政治経済の構図」猪口孝著

九〇〇円

日経経済図書文化賞

「日本の国際収支と為替レート」天野明

弘著 五、九〇〇円

△テレビ放映作品▽

大月書店

NHK・TV「ドラマ人間模様」二月二

七日夜八時五十分より四回

「過ぎたれど去らぬ日々」寿岳章子著

一、二〇〇円

筑摩書房

NHK・TV「ドラマ人間模様」四月放

映

「父への手紙」窪島誠一郎 九八〇円



今季、最初にして最後とも思われる野球の試合を、去る一月二日鹿島建設グラウンドにおいて、八重洲ブックセンター・チームとの間で行なわれました。昨年の雪辱に燃える八重洲チームは、試合前から入念なランニングと田島店長をはじめとする華やかな応援で

（有斐閣）の立ち上りの乱れに乗じて二死満塁のチャンスに、山田氏が中前打で、決勝の二点を挙げ、荻野、山田両氏の好難投策に人文会チームは、結成以来、初のシャットアウト負けを喫しました。両チーム各々二安打ずつの投手戦でしたが、少ないチャンスを物にされる八重洲ブックセンターさんの御商売上手は流石。人文会チームは、清水（東京創元社）さん、浜地（誠信書房）さんの応援もむなしく敗れました。

必勝を期しておられました。対して人文会チームは、初出場者が多く、渡辺監督（社会思想社）も戦力がつかめず、オーダーの編成に苦勞しておりました。試合は息づまる投手戦（貧打戦？）で、四回まで両軍無得点。八重洲チームは毎回塁上を賑わして（エラーによ

試合後、クラブハウスにおいて、田島店長をはじめとする八重洲ブックセンターの皆様
に暖かいもてなしをお受け致しました。改めて
厚くお礼申し上げます。また、審判をお引
き受け頂きました鈴木書店の甲斐様、田島
様、お忙しい中をありがとうございました。

△佐久間▽

人	文	会
0	0	
0	0	
0	0	
0	0	
2	0	
0	0	
×	0	
2	0	



叢書・脳を考える

意識と脳

品川 嘉也 意識がいかにして脳という構造に誕生しえたかを、説き明かす ■定価1800円

男の脳と女の脳

川上 正澄 男の脳と女の脳の性差に関する今日の知見をまとめた問題の書 ■定価1700円

手と脳

久保田 競 手と脳の働きの強いつながりを興味深くまとめた、話題の本。 ■定価1700円

心の分子メカニズム

大木 幸介 脳内分子メカニズムの解説から心の問題に迫った意欲作である ■定価1800円

紀伊國屋書店

東京都新宿区新宿 3 (354) 0131

《シリーズ》 全3巻完結 各¥1500.

現代のための哲学

80年代の現実をきりひらく新しい思想の形成をめざす研究成果!

第3巻 文化

現代文化と民主主体の形成 吉田千秋
転換期における生活と科学 佐藤和夫
現代社会と宗教意識 田平暢志
現代知識人の展望 吉田傑俊

第2巻 社会

国家と共同性の問題 市川佳宏
変革の課題と人権論 吉崎祥司
政治能力の陶冶と社会主義 後藤道夫

第1巻 人間

価値の多様化と個性的自由 高田純
歴史と主体性 太田直道
人格と社会 村山紀昭
国家と共同性の問題 市川佳宏

東京神田 青木書店 神保町1

記号を哲学する

講座・記号論②
〈第3回配本〉

川本茂雄他編 哲学とは記号とどのように関わってきたか。構造主義、分析哲学、科学史等と記号。二七〇〇円 300

ワイトゲンシュタインの夢

奥 雅博 中期の数学論に焦点を合せ、ワイトゲンシュタイン哲学のパラダイムと魅力を探る。一八〇〇円 250

人形と情念

増渕宗一 ベット、ロボットなどと多角的に比較し、情念の相関者としての人形の本性に迫る。一九〇〇円 250

ゾルゲ事件と現代

尾崎秀樹 社会と個人の生と死をめぐる最も根本的な事件、余波と周辺から探る昭和史の謎。二〇〇〇円 300

東京文京 後楽2-23

勁草書房

振替東京 5-175253

大月書店

東京文京本郷2

その時代

絶賛発売・特価23000円

マルクス・エンゲルスと

伝記アルバム・マルクス没後一〇〇年記念出版

●両雄を語る587点の貴重な絵画・写真、資料
両雄の生涯と科学的社会主義思想が生まれ発展してゆく現場を生きたいきいきと描き出し、アルバムの一ページ、一ページが彼らの生きた一九世紀ヨーロッパへといきなう。国際的協力による豪華写真・画集。特価期限83年3月14日まで・B4判変型・送料500円

活字文化の誕生

香内三郎 活版印刷が登場してから近代ジャーナリズムが形成されるまで——活字文化黎明期の印刷と言論の社会史的考察。 3500円

メイエルホロドの全体像

エドワード・ブローン 浦雅春訳 ロシア・アヴァンギャルド運動の中核を担った、先駆的演出家の仕事と思想を掘りおこす。 2800円

メディアの牢獄

《コンピューター化社会に未来はあるか》
粉川哲夫 テレビ、カラオケ、マイコン、ワープロなど、生活のなかに侵入するテクノロジーの文化支配をはね返す。 1300円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 (255) 4501

社会思想社

魔術館の一夜 泡坂妻夫

『乱れからくり』など異色のミステリー作家として注目を集めている著者のもう一つの顔 奇術師泡坂妻夫がくりひろげる創作奇術の世界。奇術の奥義、探偵小説の作法にふれながら語られるトリック・シヨート・シヨートの華麗な一夜。イラスト多数収録。

A5変型判・一七六頁 予価一五〇〇円

●教養文庫版 2月刊行開始ノ(全5冊)

完訳 水滸伝

村上知行訳 英雄・悪役入美女人入り乱れ、水滸伝のあらみ梁山泊を舞台にくりひろげる勇壮爽快な大絵巻をいきいきと描く。

東京都文京区本郷1-25 ☎(03)813-8101

SEEING

シーイング

錯視—脳と心のメカニズム

J. P. フリスビー著
村山久美子訳

目の脳と心の構図を心理・生理・コンピュータの三学問から、錯視をキーワードとして豊富な図版を基に簡明に解く。特に、立体写真は目の奥行き問題を拓く鍵として白眉につきる。

A4変型 208頁 3800円

誠信書房 東京都文京区大塚3-20-6

春秋社

「自分の死」入門

近藤 裕著 長年にわたる心理相談の臨床経験をもとに、死を包む神秘のヴェールを剥ぎ、いずれは自分の死を考へなければならぬすべての人に、自分の死と対面し、対話することをすすめて、死に方、生き方をやさしく説いた力作。死を考へて不安を抱いている人へ贈る——注目書。 定価一五〇〇円

カレル この未知なる人

J・アンチエ著 ノーベル医学賞に輝く大科学者の、神秘に包まれた全容を描く。 定価二〇〇〇円

東京都千代田区外神田2-18-6 ☎(03)255-9611

大村はま 国語教室

全15巻・別巻1

五十有余年にわたって展開されてきた著者の創造的国語教育の全容を体系化し、初めて世に送る画期的事業。現場の教師をはじめ、日本の教育のあり方を考える人々の注目をあつめる待望のシリーズ！

- 第1・2回好評発売中——各3400円
- ①国語単元学習の生成と深化
- ②ことばの指導の実際
- 次回配本④読むことの指導と提案

筑摩書房

東京神田

小川町2

西洋史学の最新の成果を示すわが国唯一の本格的辞典！ 新編 西洋史辞典

2月末日刊

京大 西洋史辞典編纂会編 A5判8ボ横二段組、一二〇頁箱入
内容見本呈 定価七、五〇〇円

- ▼好評を博した旧版に全面改訂を施した最新最高の本格的辞典。
- ▼時代と地域のバランスを周到に考慮して選んだ約五〇〇〇項目（そのうち五〇〇は新項目）を正確、平明に記述。項目相互の連関を重んじ、広い知識が得られるよう配慮した。
- ▼付録は、元首表、首相表、家系図、年表、歴史地図等、いずれも利用価値の高いもの。膨大、詳細な索引を付す。

新編 東洋史辞典

京大 東洋史辞典編纂会編
定価七、五〇〇円

東京創元社 162 東京新宿新小川町

川崎庸之歴史著作選集

〈全3巻〉完結 ●内容見本呈

① 記紀万葉の世界

“万葉”の時代を生き抜いた人々が織りなす光と影のドラマ。解説Ⅱ笹山晴生（東京大学助教授）三三〇〇円

② 日本仏教の展開

最澄と空海の時代は浄土教から鎌倉仏教の世界へ。解説Ⅱ大隅和雄（東京女子大学教授）三三〇〇円

③ 平安の文化と歴史

“源氏物語”と“往生要集”の交錯する時代を活写。解説Ⅱ網野善彦（神奈川大学教授）三三〇〇円

東京大学出版会

113 文京区本郷東大構内 電話03-811-8814

2025年

全人類の道しるべ

ジャック・ルスールヌ著

小金芳弘監修

荒木 亨訳

激動・波瀾・不透明・不確実……
人類は21世紀に希望の灯をともしめるのか？
西暦2025年に至る間の起こりうるあらゆる難題を組上にのせ、そのなかから全人類共存への賢明な道の選択をパイロットする。フランスで刊行され全世界に大反響をまきおこした話題の書。
1800円

東海大学出版会

東京都新宿区新宿3-27-4電(03)356-1541



日本評論社

新訂 朝鮮近代史研究

姜 在彦 著

定価七〇〇〇円

一九一〇年までの近代朝鮮の封建体制解体期において、植民地化への転落をくい止めるための国権回復と自主変革をめざした朝鮮人民の運動を、それと結合した思想・衛正斥邪思想と実学思想、開化思想——との内的関連のなかで考察し、その歴史的性格と位置づけを試みる。

〒160 東京都新宿区須賀町14番地

ルキーン・ ヴィスコンティ

M スターリング
訳 上村達雄

●ある貴族の生涯

●定価2,000円

ヨーロッパを代表する名門貴族の末裔に生まれた「現代のルネッサンス人」とは？ 独自の教育と長い青春を経て、演出の仕事に賭け、独自の芸術世界を築きあげた「高貴な時間」——その軌跡を、作品と背景をなす教養にふれながら再現するドキュメンタルな評論

平凡社

東京都千代田区三番町5
〒102/振替・東京8-29639

法政大学出版局

小泉 義太郎 著 (はかり)

秤の起源を東西に探り、律令制下における中国制度の導入、江戸期商品経済の発展に伴う秤の出現、明治期近代化政策の中での秤の受容など、その経緯を興味深く描く。度量衡三部作の完結編。定価2000円
既刊『ものさし』『枘』定価各1600円

ルネ・ジラル

暴力と聖なるもの

古学・神話・精神分析等の観点から、古代文明の根底に潜む暴力の構造を、現代の暴力と結びつけて考察する。定価3800円

ヴォルフガング・シベルシュ

鉄道旅行の歴史

加藤 二郎 著 鉄道旅行を産業革命の市民的体験としてヨーロッパの文化史・思想史・現代史の観点から、その変遷を中心に説く。定価2000円

東京都港区南麻布2-8/振替東京6-95814

非売品

結婚の心理 いま女性はいま

■好評既刊書より

四六判/定価二〇〇〇円
女性的生活史研究全集
四六判/定価一六〇〇〇円

女性心理学

〈最新刊〉

國分康孝 編

四六判/定価一三〇〇円

福村出版

電話東京 813-3981

東京都文京区
小石川1-3

回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印